



2016(平成28)年3月号

永代経

朝晩は冷えるものの、日中は温かくなり随分過ごしやすくなりました。温かくなるのは良いことですが、この時期になると花粉症で辛い思いをされる方も多いでしょう。私もその一人でありまして、十分に備えていきたいものですね。

さて、3月は春のお彼岸ということので当会館におきましてもお彼岸の法要をお勤めします。また、併せて永代経法要もお勤めいたします。お寺では馴染みのある「永代経」ですが、誤解を招くこともしばしばあります。

世間一般でよく耳にするのは、永代供養という言葉だと思えます。これは、「故人のために永代経の懇志を納めて追善供養のお経を上げてもらう」という意味合いで、いったん納めてしまえば、責任が果たせたと考えられ、「永代経を納めたから、お寺へ行かなくてもお経が上がるから安心だ。」と解釈される方もいるようですが、大きな誤りです。浄土真宗では、「永代経」について次のような意味があります。

「永代経」とは、「永代読経」の略で、末永くお経が読まれるという意味です。そこから、お寺が存続し、仏教が繁盛し続けるようにという意味にもなります。つまり、①お寺が護持されること、②そこで子や孫が代々にわたってみ教えを聞き喜ぶこと、この2つが「永代経」の心ということになります。また永代にわたってお経が読まれるようにと勤められるのが、永代経法要なのです。

中国の唐時代の僧侶で、浄土真宗の七高僧の一人として数えられる道綽禪師(どうしゃくぜんじ)は、このような言葉を残しておられます。

「前(さき)に生まれんものは後(のち)を導き、後に生まれんものは前を訪(とぶ)らえ」

親鸞聖人もこの言葉を、主著である『教行信証』に引用されています。この言葉の意味は、

「前に生まれたものは、後に生まれたものを導き、後に生まれたものは前に生まれたものあとを尋ね、果てしなくつらなって途切れることのないようにしたいのである。それは、数限

りない迷いの人びとが残らず救われるためである。」

ということですが、先代から私、そして私から次の世代へと仏教が伝わり、末永くお経が読まれることで仏縁・仏法が多くの人びとにひろまっていくのです。

人は生きていく間にいろいろな行いをします。善いこと、悪いことと様々ですが、善い行いが少ないとまた迷いの世界に生まれてしまうと云われています。

しかし、浄土真宗はそのような考えをせず、娑婆の縁が尽きていのちが終われば直ちに悟りの仏に成らせていただきます。迷いの世にいる人びとを智慧のはたらきで真実の道へと導いていくのです。

先人・先達から伝えられた仏縁に出会うため、仏法を聴聞し、お念仏の道を歩む人生を送らせていただく気持ちを新たにするために、永代経法要を縁としていただきたいものです。

当会館では3月20日に法要がお勤めされます。どうぞご家族お揃いでお参りください。

仏事あれこれ

仏事のQ&A

Q. 家族が亡くなった時、どこへ連絡する？

A. まずお寺へ連絡する。

亡くなられると、遺族は悲しみの中で、いろいろな手続きや準備をしなくてはなりません。最近では病院で亡くなるケースが八割を超えるのですが、それが自宅であっても、福祉施設であっても、まず医師の死亡診断書が必要になります。

その後、葬儀に向けての手配や準備を葬祭業者に頼まれることになるのでしようが、どこに頼まれるにしろ、まずはお寺に連絡していただきたいのです。というのは、葬儀の日時や場所、さらに葬儀の形態や葬祭業者の選択まで、お寺に相談されると、よりスムーズに進むからです。

特に日時については、お寺は予定を変更して葬儀に臨むわけですから、そのことを念頭に入れて、できるだけ、お寺の都合を聞いていただきたいと思います。

また日取りを決める時に、気にしなくてもよいのが「友引」です。「葬儀の友引の日を避ける」という風潮があるようですが、これは日の吉凶を占う「六曜」からきており、因果の道理を説く仏教では、むしろ、そういう日の吉凶に惑わされてはならないとされています。

ですから、もし「友引」を気にする人がいても、気にする必要がないことを説明して安心させてあげてください。

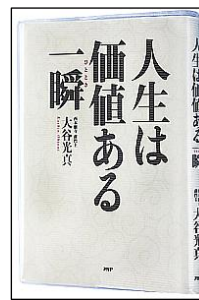
お念仏を喜べば、仏さまがその勇気を与えてくださることでしょう。何の根拠もないことに身を煩わすのではなく、周囲に振り回されずに、しっかりとした主体性をもって人生を歩む（喪主を務める方の力量が問われることになるのですが）、その精神的支柱となるのが仏教であり、お念仏なのです。



『新・仏事のイロハ』より抜粋

仏教書紹介

『人生は価値ある一瞬』
ひととき



不安や迷いは当たり前。背伸びせずに毎日を精いっぱい生きればよい。

目に見えない大切なものは、一人ひとり縁によって獲得するべきものですが、私にとつては、仏教の教えです。手っ取り早い解決法にはなりませんが、今さえよければ、自分さえよければという狭い思いを打ち砕く大切なたらきを持った仏教を手がかりに、現代生活のさまざまな課題に、どう対処することができるかを考えてみました。本書が少しでも人生のヒントになればと思います。

(まえがきより)

大谷光真前門さまが語る、こころ豊かな生き方のヒント。

※お求めは本願寺出版社へ

2月行事の様子

★如月忌参拝 2月7日(日) 13時00分～16時30分

九條武子さまの御命日の法要である如月忌が和田堀廟所でお勤めされ、当会館からは、4名の方が参拝されました。

ご法話



墓前焼香



当日は遠近各地より、100名を超える参拝があり、13時より法要「阿弥陀経作法(楽入)」が満堂のなかお勤めされ、勧学・浅田恵真師のご法話、楽友会のコーラスや九條武子さま墓前参拝など様々な行事の後に、和田堀廟所仏教婦人会のご接待のもと、ぜんさいを美味しくいただきました。

法要



★常例法座 2月14日(日) 13時00分～15時00分

2月とは思えないほどの温かい陽気のなか、お勤め、ご講師・熊原博文師よりご法話をいただき、14名の方が参拝されました。

ご法話



勤行「正信偈」



お得度(とくと)

この度、ご門徒の方が得度(僧侶になること)されるということで、2月18～28日まで京都・西山別院で習礼を受けられました。男性は全員剃髪し、女性は特に剃髪する必要はありませんが、剃髪をされて臨まれました。その心意気に頭が下がります。



東久留米会館の 行事案内

—Schedule—

▶ 3月の行事予定

東日本大震災追悼法要

3月11日(金) 午後2時46分～

1万5千人を超える、多くの方が亡くなられた大震災も今年で5年の月日が経ちました。大震災が起こった同時刻に法要をお勤めいたします。

親鸞聖人御命日お晨朝総参拝

3月16日(水) 午前7時～

月に1度、朝のお勤めにお参りしませんか？お供物のおさがりをプレゼントいたします。

春季彼岸会

3月20日(日) 午後1時～

ご講師 山崎龍明 師

(東京都 法善寺)

心に彼岸(お浄土)を思い、お聴聞いたしましょう。



キッズサンガ子ども会

3月26日(土) 午前10時～

劇団・前進座ご協力のもと、「歌舞伎ことはじめ」と題し、歌舞伎の体験をしていただきます。どうぞ、ご家族でご参加ください。

▶ 4月の行事予定

はなまつい

4月17日(日) 午前10時～
午後1時～

お釈迦さまのお誕生をお祝いする行事です。午前の部はお子さま対象、午後の部は大人対象となります。ご家族お揃いでお参りください。

お仏飯米ご進納のお願い

当会館では、お仏飯米のご進納を随時受付しております。

ご進納いただいたお仏飯米は、毎朝のお晨朝のお勤めの際、仏さまにお供えいたします。

また、お米ではなく懇志としても受付しております。ご進納いただいた方は、寺報並びに会館の掲示板にお名前を掲載させていただきます。

ご協力よろしくお願いいたします。

編集後記

今年の初めに叔父が往生いたしました。本願寺派布教使として、各地で布教に回っており、その姿を見て私も布教使を目指したことを思い出します。今月、満中陰(49日)に、山口県の叔父のお寺へお参りする予定です。(安)

東久留米会館会報 「ともしび」 第239号

発行日 2016年3月1日

発行者 安邊 泰教

住所 東京都東久留米市柳窪5-8-30

電話 042-474-6787